

12月定例所長会見における発電所長挨拶内容

所長の設楽でございます。

福島第一原子力発電所の事故から5年9ヶ月が経とうとしております。今なお、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、あらためまして心よりお詫び申し上げます。

本日、私からは、3点お話しをさせていただきます。

まず始めに、12月16日に予定している柏崎市桜井市長の当発電所視察についてです。

桜井市長が当発電所をご視察されるのは、東日本大震災以降、初めてとなりますが、当日は、私も同行し、安全対策設備をご覧いただくほか、同日実施する総合訓練の様子などご視察いただく予定としております。

また、当発電所の視察に先立ち、12月15日に福島第一原子力発電所をご視察される予定となっております。事故後の福島第一原子力発電所について、直接現地をご覧になることで、震災当時の対応状況や現在の状況等のご理解を深めていただき、また、柏崎刈羽原子力発電所が、事故の教訓を踏まえて、どのような安全対策を講じてきたかなどについて、ご理解の一助としていただければと思っております。

次に、原子力規制委員会による適合性審査の対応状況についてです。

2016年12月8日

当発電所6号機、7号機につきましては、2013年9月に新規制基準に基づく適合性審査の申請を行い、現在、原子力規制委員会による審査が継続的に実施されております。

至近の状況では、先日の審査会合において、津波評価の前提条件として、液状化による敷地内の地盤沈下量の想定をご説明しております。また今後、5号機に設置する緊急時対策所等に関するご説明も行っていく予定です。

引き続き、残っている論点について丁寧に説明し、審査に真摯に対応してまいります。

三点目は、「ふれあいトークサロン」と各種イベントの開催についてです。

当所では、発電所の職員との懇談とカルチャー教室をセットにした企画として、「ふれあいトークサロン」を適宜開催しております。

少人数によるフェイス・トゥ・フェイスの懇談という形で、発電所の最近の取り組み状況について、わかりやすくご説明させていただくとともに、皆さまからのご意見やご質問等を承り、お応えさせていただく機会としております。

今回は、16日に柏崎エネルギーホール、17日に刈羽ふれあいサロン「き・な・せ」にて、それぞれ開催する予定としており、これにあわせ、カルチャー教室として新年への願いを込めた「しめ縄作り」を体験していただくこととしております。

また、今月下旬には、サービスホールにおいて「クリスマスイベント」を、刈羽ふれあいサロン「き・な・せ」において「そば打ち体験教室と発電所見学会」を、それぞれ開催いたします。

今後も、このようなイベント等を通じた地域の皆さまとのふれあいの中で、より多くの方々に、発電所の安全性向上に向けた取り組みについてご理解いただけるよう、引き続き努めてまいります。

最後に、今年も残すところあと20日余りとなり、本日が今年最後の定例会見となりましたので、少し近況を振り返りたいと思います。

先月29日、社長の廣瀬、新潟本社代表の木村とともに、桜井新市長、会田前市長、品田村長にご挨拶する機会を得ることができました。

その際、ご要望として、当発電所で実施している安全対策工事や緊急時を想定した訓練などについて、引き続きしっかりと取り組むこと、そのような取り組みを丁寧に説明すること、地域の皆さまの安心を醸成すること、といった旨のお話をいただきました。

私自身、日頃から、地域の皆さまお一人おひとりとのコミュニケーションが「安心」につながる一番の活動だと感じております。

発電所として、より一層の安全性向上を目指すことを大前提として、地域の皆さまとのコミュニケーションを大切にし、信頼いただけるよう、そしてご安心につながるよう、今後も邁進してまいりたいと決意を新たにしているところです。

本日、私からは以上です。

以 上